



失敗から学ぶ

季節の移り変わりは早いもので、師走を迎えました。これから、本格的な寒さが始まり、風邪等が流行ってくることと思います。例年お願いしていることですが、風邪予防のため〈手洗い・うがい〉を励行し、ご家庭でも健康管理に十分注意をしてください。

11月の子どもたちは朝のマラソンに懸命に取り組んでいました。マラソン大会ではその練習の成果を発揮しようと頑張ってくれることと思います。目標に向かって走る。例年のマラソン大会でもそういった姿が見られました。話を聞くと「1位!」「10位以内!」や「去年の順位を超えること。」など一人一人目標を持っていました。大会では、いつも以上に真剣な表情で全力を出し切り、走り終わった後、肩で息を切り、力を出し切った子どもの姿がありました。結果に満足している子どもも多くいましたが、その中で涙を流している子の姿もありました。悔しさからくる涙です。その姿を見て、次の一節を思い出しました。

『“失敗してもいいからやってみよう”という失敗と“絶対に成功させてやる!”という気持ちのもとでの失敗は、まったく別なものだと思います。後者の失敗では大きなショックを味わいますが、そこから学ぶことは前者よりも非常に大きいのです。』子どもの頃の悔しい経験は、人としてたくましく成長するためにも必要なかもしれません。努力が実った子、悔しさで涙を流した子、どちらも多くのことを学んでくれたと思っています。今年のマラソン大会でもいろいろなことを学ぶ機会になればと思います。

話は変わりますが、江戸時代に日本を訪れた外国人の多くが、日本人の礼儀の正しさや誠実で親切であること、誰もが学ぶ意欲をもって教養があることなどを本国への手紙や書物にして、その驚きや敬意を表していたと聞きます。江戸時代には、「江戸しぐさ」といって、「傘かしげ」（たがいに傘を外側に向けて通りぬける習慣）や、「肩引き」「かに歩き」（一方の肩を引き、横歩きしてお互いがすれ違うしぐさ）というしぐさがあったそうです。このような周りへの気配りは、人間関係を円滑にするために必要なことです。もちろん多くの日本人は、今もそうであると思いますが、そうでない人が増えてきていると感じることもまた事実だと思います。

人々の心を和ませ、人間関係を円滑にし、自分も周りの人も幸せを感じて生きていくためにはどうすればいいのかを、子どもたちにはぜひ学んでほしいと考えています。本校の教育目標の「心豊かでたくましく、自ら学ぶ子どもの育成」の「心豊か」について、人が人として豊かな心を持ち、豊かに生きていくためにはどうすればいいのかを常に考えながら、難波っ子たちを保護者の皆様、地域の皆様と連携して育てていきたいと思っています。これからもご支援をよろしくお願いいたします。